



TITLE:

阿里山の黄道光観測だより

AUTHOR(S):

本田, 實

CITATION:

本田, 實. 阿里山の黄道光観測だより. 天界 1936, 17(187): 24-24

ISSUE DATE:

1936-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167356>

RIGHT:

阿里山の黃道光觀測だより (口繪參照)

——(近 況)——

拜啓 御無沙汰いたしました。私、阿里山へ参りました當時は連日惡天候でくさつてゐましたが、やうやく天候がよくなりはじめました。觀測所でいきますと、この阿里山の天候は一定の型にはまつてゐるそうでございます。3月頃より雨季になり9月頃までつき、そして一日の天候も朝は良く晴れてゐても10時頃より曇りはじめ、正午頃より濃霧が発生し、夕方近く雨になり、22時頃より又晴れるのだそうです。

私が参りましてからも實際その通りです。朝いかによく晴れてゐしても正午近く濃いガスが発生して、それが谷底よりペルム(檜の一種)の梢を渡り、杉と檜の植林をかすめて、固りとなつて上へ上へと昇ります。すると、急に暗くなり、氣溫が下つて、ブルブル肌寒さを憶へせしめます。そして今まで東の空にみえてゐた新高山は何時のまにか見えなくなります。一體、この溫度はいくら臺灣でもさすが2400米の高山、9月初旬と云ふに内地10月頃の氣溫です。觀測所にはいつも火鉢が入れられてあります。

阿里山の人口は約2000人位だそうで、本島人(蕃人に非ず)1300人位、内地人約600だとかきました。ホテルもあり、又大きい製材所もあり、驛もかなり大きいものです。驛には毎日何回か直徑2米もありそうなベニヒヤ檜の大木を營林所經營の汽車が曳いて入ります。

觀測所は、村より一寸離れた、山の上です(村より約30分)。見晴らしの良い所で、天候の良い日には遠く澎湖島を望むことが出来るそうです。又東には有名な新高山がよく見えます。

夜、觀測所の露臺に立つてみますと、北極星ははるかに低く、23度の高さに輝き、又南の空には見たこともない星がきらめきます。そして、その輝きを見て居ますと、さすが、「異國だなア」と感ぜざるを得ません。先づは右まで。草々

9 月 15 日

本 田 實